

中国語の目的語の位置

文 楚 雄

I 始めに

中国語の目的語は文法上の意味から分類すれば、十数種類に分けることができる。
孟琮氏は中国語の目的語を次のような十三種類に分類している¹⁾。

- ①受事目的語 → 我看书。²⁾
- ②結果目的語 → 我砌墙。
- ③対象目的語 → 我们尊敬老师。
- ④道具目的語 → 他捆绳子。
- ⑤方式目的語 → 他写草书。
- ⑥場所目的語 → 我睡小床。
- ⑦時間目的語 → 你在哪里过年?
- ⑧原因目的語 → 我们愁经费问题。
- ⑨使役目的語 → 他温酒。
- ⑩施事目的語 → 来了一个人。
- ⑪目的を示す目的語 → 我挂票。
- ⑫同源目的語 → 我们唱歌。
- ⑬同一目的語 → 他是代表。

また目的語の構造から分類すれば、次のように分けることができる。

- ①名詞目的語。 ②場所名詞目的語。 ③数量詞目的語。 ④代名詞目的語。 ⑤動詞目的語。 ⑥形容詞目的語。 ⑦体言連語目的語。 ⑧用言連語目的語。

また動詞との係わりから考えれば、目的語を伴う述語は次のようなものがある。

- ①単音節動詞述語。 ②双音節動詞述語。 ③動・補式述語。 ④動・得補語式述語。 ⑤動・方向補語式述語。 ⑥動・目式述語。

中国語の目的語は一般的に述語の後にあり、主語・述語・目的語という構造は中国

語の文の基本的な構造となっている。しかし、一方、現実の言語生活の中では、目的語は必ずしも述語の後に置くとは限らず、述語の前に置いたり、主語の前に置いたりする現象がよく見られる。例えば、

- ① 我 看了 这本书。 S・V・O
 ② 我 这本书 看了。 S・O・V
 ③ 这本书 我 看了。 O・S・V
 ④ 我 把这本书 看了。 S・把O・V
 ⑤ 这本书 让我 看了。 O・让S・V
 ⑥ 这本书 看了， 我。 O・V，・S
 ⑦ 看了 这本书， 我。 V・O，・S

このように目的語の「这本书」は必ずしも述語の後に置くとは限らず、述語の前に置いたり、主語の前に置いたりすることもできるのである。また目的語の「这本书」はどこに置いても、文が表している基本的な意味は変わらないのである。ここで示しているように中国語の目的語の位置はかなり自由なのである。上述の十三種類の目的語もそのすべてが基本的に述語の前に移動することができるのである。

本稿ではこのように自由に動かすことのできる中国語の目的語について、その移動できる原因や移動できる場合とできない場合の構造上の条件や法則性などを考察してみたいと思う。

なお、本稿で言う目的語は述語の動詞との係わりの意味上のものを指すのであって、意味や動詞との係わりを考えずに、述語の前に置くものを主語として取り扱う説³⁾とは異なることを先ずことわっておく。

II 述語の動詞が文の中心

中国語の文に於いては、もっとも重要な成分は述語の動詞である。一つの文は述語としての動詞、形容詞がなければ、成立できない。⁴⁾述語の次は目的語が重要である。中国語の目的語は省略できない場合が多い。一つの名詞が文に入る時にはどんな成分になるかは、述語の動詞で決まってくる。述語の動詞は先ず目的語を要求する。それから主語や連用修飾語などを要求する。一つの名詞が目的語として文に入った場合には、それは動詞の前に置いても後に置いても、動詞との係わりやつながりは変わらない場合が多い。さらに述語の動詞との関係がはっきりすれば、目的語は述語の前に置き換え、主語は述語の後に置き換えることさえも可能である。一般的には目的語を述語

の前に置くことができても、主語を述語の後に置くことができないのである。置くとしても句読符号などを入れたりする必要がある。現実の言語生活の中では目的語と主語とはまったく逆の位置に置かれる言い方がある。例えば、

两个人 抽 一支烟。(二人で (が) 一本のたばこを吸う。)

三个人 吃 一块蛋糕。(三人で (が) 一つのケーキを食べる。)

上述の文の目的語「一支烟」、「一块蛋糕」と主語「两个人」、「三个人」は次のように入れ替えることができる。

一支烟 抽 两个人。

一块蛋糕 吃 三个人。

このように目的語と主語との位置は入れ替えることができるのである。位置が入れ替っても、文が表している意味はまったく変わらない。誤解もしない。つまり「人」と「烟」は「抽」という動詞、「人」と「蛋糕」は「吃」という動詞で結ばれて、それぞれどんな役割をはたすかは決まっているのである。従って、その位置が述語の動詞の前であろう、述語の後であろう、はたす役割は同じことである。もう二例を見てみよう。

巧克力 吃 馋了 你的嘴。

(あなたはチョコレートを食べ、食いしん坊になった。)

奶油 吃 坏了 我的肚子。

(私はバターを食べておなかを壊した。)

目的語の「巧克力」、「奶油」は「吃」の前に置いてあり、主語の「你」、「我」は「吃」の後に置いてある。このような文では述語の「吃馋」「吃坏」と文に入っている名詞との関係は次のようになっている。

你 吃 巧克力。你的嘴 馋了。

我 吃 奶油。我的肚子 坏了。

このように中国語の目的語と主語を逆の位置に置くことができるのである。しかし、目的語を述語の前に自由に動かすことができても、主語を述語の後に置くことが簡単にできない。かなりの制限がある。これについては後節で考察してみたいと思う。

このように中国語では動詞が文に入る時にはどのような目的語を伴い、どういう主語を伴うかは決まっているのである。従って目的語は述語の後から述語の前に移動することができるのである。次に幾つかの動詞の例を見てみよう。

「编写」, 「建筑」, 「管理」

例えば、「编写」という他動詞が文に入った時にはどんな目的語を伴うかは最初から決まっている。大体「教材」といったような目的語を要求する。例えば、

编写 教材。 编写 电影剧本。

この「编写」という動詞は「教材」といったような名詞のほか、沢山の名詞と組み合わせることができる。しかし、「教材」以外の名詞と組み合わせる時には、動詞と名詞との間の関係は変わってしまう。例えば、

编写 方法。 编写 水平。

今度の「编写」の後に置いてある「方法」、「水平」は同じ名詞であるが、教材といったような意味の名詞ではないので、目的語にはならない。「编写」は後の名詞「方法」、「水平」の連体修飾語となっている。語彙と語彙の間の構造関係は変っている。「建筑」、「管理」という動詞も同じことである。

建筑 房子。(家を建てる) 建筑 方法。(建筑の方法)

管理 学校。(学校を管理する) 管理 水平。(管理のレベル)

このように動詞がどんな目的語を伴うかは最初から決まっている。従って目的語は述語の後から述語の前に移動することができるのである。目的語は動詞の後に置いて動詞の前に置いても、文が表している意味は基本的に変わらないのである。また目的語は動詞が求めているものでなければ、動詞の後に置いても目的語にはならない。中国語では述語の動詞にとっては、主語よりも目的語の方が重要であり、動詞は目的語と緊密な関係を持っている。これは中国語の語彙の構成から見ても分る。中国語では動・日式の語彙が主・述式の語彙よりもずっと多い。中国語の述語の動詞は文の中心である。目的語は述語の動詞で決まる。

Ⅲ 述語の前に移動できる目的語

3-1 語法上の意味による分類の場合

中国語の目的語は語法上の意味から分類すれば、前述のように十三種類に分けることができる。この十三種類の目的語は基本的にすべて述語の前（文の最初）に移動することができる。

① 受事目的語

我 看了 电影。 → 电影 我 看了。

我 洗完了 衣服。 → 衣服 我 洗完了。

次の二例も波線部の目的語の移動は可能である。

约翰 向她 描述 了自己那隐藏已久的古怪预感，那几乎是神圣的等待感。(《1988年中篇小说选 P520》⁵¹)

而捷夫又偏巧在这时张贴出寻室友的广告(《中选》P521)。

②結果目的語

妈妈 包好了 饺子。 → 饺子 妈妈 包好了。

我 写了 字。 → 字 我 写了。

次の二例も波線部の目的語の移動は可能。

母亲在我贴身的背上缝了个肚兜，掖进了30美元。(《中选》P519)

采天地之精华，钟万物之灵秀，才滋养出这一方宝地。(《中选》P527)

③対象目的語

他 喜欢 小孩。 → 小孩 他 喜欢。

他 违反了 学校的 规定。 → 学校的 规定 他 违反了。

次の二例も波線部の移動は可能である。

上机前最后一回头，我 瞥见 母亲 满脸 泪水 狼藉。(《中选》P519)

几乎是一到美国我就 认识了 捷夫。(《中选》P521)

④道具目的語

他 正在 捆 绳子。 → 绳子 他 正在 捆。

我 写 小笔。 → 小笔 我 写。

次の二例も波線部の目的語の移動は可能である。

从中国那个北方大城到美国这南方小城得换乘 三架 飞机。(《中选》P519)

他 戴着 太阳 镜，不知是否在笑。(《中选》P524)

⑤方式目的語

他 唱 高音。 → 高音 他 唱。

我 写 横书。 → 横书 我 写。

次の二例の波線部の目的語の移動は可能。

而是为了节电，馆内开架区域的所有灯光全部自动化，真正 做到了 人 走 灯 灭。(《中选》P518)

我 真想 扇 他 一记 响亮的 耳光，叫他从此明白一只巴掌也拍得响。(《中选》P522)

⑥場所目的語

我 去 北京。 → 北京 我 去。

我跑 弯道。 → 弯道 我跑。

次の二例の波線部の移動も可能である。

(我)第一脚踏上美国土地，就口鼻清爽，行走如飞。(《中选》P520)

他和他的水手们饥病交加，两手空空地挣扎到了 未知的彼岸。(《中选》P520)

⑦時間目的語

我在北京 过 春节。 → 春节 我在北京 过。

我们又 迎来了 新的一年。 → 新的一年 我们又 迎来了。

次の二例も波線部の移動も可能である。

他们成了 好朋友，一起 度过了 许多愉快的时光。(《中选》P525)

老六的 目光 一瞬间 就穿越了 几十年的时空。(《中选》P196)

⑧原因目的語

他们 常吵 孩子的事。 → 孩子的事 他们 常吵。

我很 担心 交通。 → 交通 我 很担心。

次の二例の波線部の移動も可能である。

我当时简直忙得恨不能取消睡眠。忙 功课，忙 英文，忙着 打量我的新大陆。(《中选》P521)

他们连杯子都不换。小心 传染病。(《中选》P523)

⑨目的を示す目的語

他天天 要 挤 汽车。 → 汽车 他天天 要 挤。

次の例の波線部の移動も可能である。

第二天我 就要 考 驾照。(《中选》P194)。

⑩施事目的語

昨晚走了 一个人。 → 昨晚 一个人 走了

东方升起了 红太阳。 → 红太阳 从东方 升起了。

次の二例の波線部の移動も可能である。

立刻就跑过来 一个人，问我是不是迷了路。(《中选》P529)

如果这跑车上再坐着 一个黑发棕眼黄皮肤的东方姑娘，那就不足抢眼，简直扎眼了。(《中选》P523)

⑪同一目的語

你 演 主角。 → 主角 你 演。

他 踢 中锋。 → 中锋 他 踢。

⑫使役の意味を示す目的語

我 温酒。 → 酒 我 温。 → (我使酒温)

他 热菜。 → 菜 他 热。 → (他使菜热)

次の例の波線部の目的語も使役の意味を示す。

他们一起乘船到索伦托去，渡过了海湾，想吹吹风。(《中选》P520)

⑬数量を示す目的語

他 多次吃过半公斤。 → 半公斤 他 多次吃过。

我 跑过十公里。 → 十公里 我 跑过。

次の例の波線部の目的語も数量を示す。

这所大学的图书馆象这座城市一样，非常现代，地面上盖了三层，地底下盖了四层。(《中选》P518)

“你在公司服务多少日子?”(《中选》P377)

3-2 構造によるもの

一部の目的語は文の構造上の原因で、述語の後に置くことができず、述語の前に置かなければならない。

3-2-1 一部の関連の意味を表す副詞

一部の関連の意味を示す副詞で構成された述語では、その目的語は述語の後に置くよりも述語の前に置いた方がよい、或いは述語の前に置かなければならない構造となっている。

这篇稿子 他 改了又改。 → 他 改了又改 这篇稿子。(?)

这道题 他 一看就懂了。 → 他 一看就懂了 这道题。(?)

这种酒 他 越喝越想喝。 → 他 越喝越想喝 这种酒。(?)

谁 我 也不认识。 → 我 也不认识 谁。(?)

上述の文の目的語「这篇稿子」，「这道题」，「这种酒」，「谁」は述語の後に置いたら、文の成立が難しい。述語の中に関連の意味を示す副詞「又」，「一…就…」，「越…越…」，「也不」が入っているからである。このように関連の意味を示す副詞が述語に入った場合には、その目的語は述語の後に置くことができなく、述語の前に置かなければならない。もし関連の意味を示す副詞を除去すれば、それらの目的語は述語の前にも後にも置くことができる。

这篇稿子 他 改了改。 → 他 改了改 这篇稿子。

这道题 他 看懂了。 → 他 看懂了 这道题。

这种酒 他 想喝。 → 他 想喝 这种酒。

次の例の波線部の目的語は述語の後に置くことができない。

中国刚一开放，我就跑出来，连大学毕业文凭 都没上拿。(《中选》P519)

饿得眼冒金星，连肠子里的苦水 都吐净了。(《中选》P520)

远处，起伏的黄土圪梁挡住了他的视线，自然什么 也没能看到。(《中选》P202)

3-2-2 状態，程度を表す補語が付いている場合

述語の後に状態，程度を表す補語を伴っている場合には，その目的語は述語の後に置くことができなく，述語の前に置かなければならない。

参考资料 他 整理得整整齐齐。 → 他 整理得整整齐齐 参考资料。(×)

这篇文章 他 朗读得很流利。 → 他 朗读得很流利 这篇文章。(×)

这个问题 我 说明清楚了。 → 我 说明清楚了 这个问题。(?)

上述の文の目的語「参考资料」，「这篇文章」，「这个问题」は述語の後に置くことができなく，述語の前に置かなければならない。これは述語の後に状態，程度を表す補語が付いているからである。もし述語の後の補語を除去すれば，目的語は述語の後にも前にも置くことができる。

参考资料 他 整理了。 → 他 整理了 参考资料。

这篇课文 他 朗读了。 → 他 朗读了 这篇课文。

这个问题 我 说明了。 → 我 说明了 这个问题。

次の例の波線部の目的語は述語の後に置くことができない。

这话 他 说得慷慨激昂，只是嘴唇有点哆嗦。(《中选》P204)

她爹 对这个地方 羡慕得咬牙切齿，而如今又对这个地方 恨得咬牙切齿。(《中选》P193)

远远近近的几只高音喇叭 将一支歌 唱得参差不齐。(《中选》P193)

3-2-3 目的語と主語との位置が入れ替わる

中国語の目的語は前述したように，多くの場合は述語の後から述語の前（主語の前）に移動することができる。一般的には目的語は述語の後から述語の前に移動することができるが，主語は述語の後に移動することができない。しかし，次のような場合は目的語は述語の前に移動できるばかりでなく，主語も述語の後に移動することができる。即ち，目的語と主語との位置は入れ替えることができる。

例えば：

三个人 睡 一间 房间。 → 一间 房间 睡 三个人。

两个人 吃 一碗 饭。 → 一碗 饭 吃 两个人。

このように「主・述・目」構造は「目・述・主」構造に変化している。主語と目的語との位置を入れ替えている。位置が入れ替わっても、文が表している意味はまったく変わらない。誤解もしない。しかし、このような言い方はすべての文に当てはめることができない。一部の文にしか使えない。このような文では構造上には次のような特徴がある。

まず、目的語と主語になるものは数量詞連語でなければならない。普通の名詞では使えない。

两个人 吃 一碗 饭。 → 一碗 饭 吃 两个人。

ここで示しているように、主語と目的語はそれぞれ数量詞連語「两个人」、「一碗饭」を使っている。もし数量詞を除去して、「人」、「饭」だけを残すならば、目的語は述語の前に移動することができても、主語は述語の後に移動することができない。

人 吃 饭。 → 饭 人 吃。 → 饭 吃 人。×

また目的語には「这」、「那」といったような指定語を使ってもよい。

两个人 吃 这碗 饭。 → 这碗 饭 吃 两个人。

三个人 睡 那间 房。 → 那间 房 睡 三个人。

このように「一碗饭」を「这碗饭」に、「一间房」を「那间房」に替えることができる。しかし、動作の主体としての主語「两个人」、「三个人」は「这个人」、「那个人」に換えたら、主語は述語の後に移動することができなくなる。

这个人 吃 一碗 饭。 → 一碗 饭 吃 这个人。×

那个人 睡 一间 房。 → 一间 房 睡 那个人。×

このように目的語と主語との位置が入れ替わる文の構造には、かなりの制限がある。主語も目的語も数量詞連語で構成しなければならない。

3-2-4 方向補語を伴う時の目的語

述語が「来、去、上、下、进、出」などの方向補語を伴うと同時に目的語を伴う場合には、その目的語は方向補語の後に置いたり、前に置いたり、さらに双音節方向補語の場合には方向補語の間に置いたりする。

①方向を示す補語と述語の動詞との結合が堅い場合には目的語は方向補語の後に置く。次の用例を見てみよう。

在和不多几个亲友行了过于隆重的告别礼——拥抱——之后，就忽忽飞上了天。(《中选》P519)

就好比我先画了个框，捷夫不大不小不肥不瘦正好落进这副框子。(《中选》P522)

一口气吸下了半支烟不见吐出烟雾。(《中选》P210)

“你真行呀，小浙江。你小小年纪就为你爹拴下个工厂。”(《中选》P208)

波線部の目的語は〈 〉で示している方向補語の前に置くことができない。

②方向を示す補語と述語の動詞との結合が緩い場合には、目的語は方向補語の前にも後にも置くことができる。また双音節補語の場合には方向補語の間に置くこともできる。例えば：

昨天我给弟弟寄去了一本书。

昨天我给弟弟寄了一本书去。

他拿进来一瓶酒。

他拿一瓶酒进来。

他拿进一瓶酒来。

このように波線部の目的語は方向補語の前、後、間のどちらにも置くことができる。次の例の波線部の目的語の移動も可能である。

而这小小一块肉，又被我和巴斯克伦大卸八段，一段一段榨出汁儿来。(《中选》P518)

3-2-5 数量補語を伴う時の目的語

述語の後に目的語を伴うと同時に数量補語を伴う場合には、その目的語の位置は次のようになる。

①目的語が代名詞から構成される場合には、目的語は数量補語の前に置く。例えば：

我们要好好教训他一顿。 → 教训一顿他。×

我去医院看望他三次。 → 看望三次他。×

詹姆斯只不过虎虎地瞪了我一眼——象丛林中的猛兽那样——我就筛了糠。(《中选》P518)

捷夫太大我两岁，显得却大了我10岁。(《中选》P522)

このように波線部の代名詞の目的語は数量補語の前に置かなければならない。しかしこれについては李興亞氏は文学作品の中にはたまに代名詞の目的語は数量補語の後に置く場合があると指摘している。⁶⁾

②代名詞以外の場合には一般的に目的語は数量補語の後に置く。例えば：

李老师在礼堂作了一次讲演。 → 作了讲演一次。×

出发前他读了一阵书。 → 读了书一阵。×

于是，秋月又看一眼大兴庄，果然是柱折梁倾般的荒败。（《中选》P186）

宋喜元披一件派力司灰白色中山装上衣。不时地要颤动一下双肩。（《中选》P206）

このように波線部の目的語は〈 〉で示している数量補語の後に置いてある。

③数量補語が単音節語彙の場合或いは指示代名詞「这、那」が入っている場合には、目的語は数量補語の後に置く。例えば：

他向我点了下头。 → 点了头下。×

我走了这一天路，累坏了。 → 我走了路这一天。×

不知是我还是手里的詹姆斯吁了口气。（《中选》P518）

他说：“你就带个头，不过是写张大字报，发几分钟的言。”（《中选》P140）

このように目的語は〈 〉で示している単音節数量補語の後に置いてある。

④目的語は数量補語の前にも後にも置くことができる。

我用力拉了小王一把。 → 我用力拉了一把小王。

请你通知小李一下。 → 请你通知一下小李。

我看了一眼那个人。 → 我看了那个人一眼

3-3 目的語を移動する意味

中国語の目的語は構造上の原因で述語の後に置くことができない一部のものを除いては、本来は述語の後に置くべきものである。主・述・目の構造は中国語のもっとも基本的な構造である。しかし、現実の言語生活の中で表現上などの原因で、よく目的語を述語の前（主語の前）に移動したりしている。述語の前に移動された目的語はおよそ次のような幾つかの役割があると考えられる。

3-3-1 文の話題の提供

中国語では一つの文に於いては何を文の最初に置き、文の話題にするかは比較的自由である。動作の主体は勿論のことだが、動作の対象、道具、場所、時間なども文の最初に置いて話題にすることもできる。従って目的語の内容を話題にしたい時には、目的語を文の最初に持って来るのである。例えば：

我昨天晚上在学校电影院看了电影。

昨天晚上我在学校电影院看了电影。

在学校电影院昨天晚上我看了电影。

电影我昨天晚上在学校电影院看了。

このように動作の主体である「我」、時間を表す言葉「昨天晚上」、場所を示す言葉「在学校电影院」、動作の対象である「电影」はどちらでも文の最初に持って来て話題にすることができる。話題にされたものは強調されて読者や聞き手の注目を集める。

他又笑，然后玩笑道：“监狱 你也好奇？”（《中选》P523）

“李老师的为人 你还是信得过的对不对？”（《中选》P193）

波線部の目的語「监狱」、「李老师的为人」は文の最初に置いて、文の話題にしている。

3-3-2 文と文の間のつながり

中国語では独立した一つの文が文章の段落に入ると、前後の文の意味やつながりなどの原因で、文の構造を変えたりする必要が出てくる場合がある。主・述・目構造の文が前の文とのつながりや構造などの関係で、よりよい表現効果を出すために目・主・述構造の文に変えたりする。次の用例を見てみよう。

这几年煤田又一下子出现了四五十个乡镇小煤窑。四五十支人马在地下你抢我夺，在谢云华们防不胜防中，煤田被捅成了马蜂窝。大矿很难正常开采了。（《中选》P199）

办公室。商店。饭店。医疗所。门面花花绿绿的俱乐部。两行垂柳依依。一切古老和破旧都不复存在。姑娘们脸白肉嫩穿戴入时。惊叹不已的目光从过街的车辆上闪闪亮亮地投下来。（《中选》P206）

波線部の目的語「大矿」、「惊叹不已的目光」は前後の文の意味や構造などの原因で文の最初に置いてある。

3-3-3 対比の意味を表す

中国語では対比の意味を表すには同じ構造の文を使うのは方法の一つである。目的語を対比させたい時には、目的語を文の最初に移動して対比の意味を表す。例えば。

录音也听过了。 练习也做过了。

北京 我常去。 上海 我不太去。

早几天杨志顺和他说过，窑下的巷道 越打越深，煤 越来越远，压风机功率小，掌子面上的风不够用了。（《中选》P206）

このように波線で示している目的語は対比の意味を表している。

3-3-4 目的語の強調

目的語を述語の後から述語の前に移動することにより、目的語を強調する。次の用例を見てみよう。

我36小时一口饭没吃。(《中选》P520)

女郎 旧事 重提，将10年前的所有细节描绘得栩栩如生。(《中选》P520)

波線部の目的語「一口饭」，「旧事」を述語の前に置くことにより、強調の意味を表す。

IV 述語の前に移動できない目的語

中国語の目的語は前に述べたように文法の意味による分類では基本的にすべての目的語は述語の前に移動することができる。しかし、一方、文の構造から見る場合には一部の目的語は文の構造上の原因で述語の前に移動することができない場合がある。これは目的語自身に原因があるよりも、殆どの場合には目的語を伴う動詞に原因があるのである。これらの動詞については詹人鳳氏は六種類に分類している。²⁾

4-1 目的語の移動ができない動詞

一部の他動詞は目的語を伴うことができるが、その伴った目的語は述語の前に移動することができない。

4-1-1 関係動詞

動詞の中には関係動詞と呼ばれるものがある。関係動詞については劉月華氏の文法書では次のように定義している。³⁾「語彙的な意味は比較的抽象的であり、その主な働きは主語と目的語を結び、両者の間に何らかの関係が存在することを表わすことである。故に関係動詞の後には普通目的語が現れるのであって、大部分の関係動詞にとっては、目的語は不可欠すらある。」関係動詞の目的語は普通、動詞の前に移動することができない。関係動詞は数が少なく、主なものには次のようなものがある。「在，有，姓，成为，像，如，等于，是」等。

他在教室。→ 教室他在。×

中国有十二亿人口。→ 十二亿人口中国有。×

他姓张。→ 张他姓。×

他像他父亲。→ 他父亲他像。×

光说不做 等于 没说。 → 没说 光说不做 等于。 ×

房子前面 是 一条大路。 → 一条大路 房子前面 是。 ×

しかし、関係動詞の目的語は場合によっては述語の前に移動したり、主語と入れ替わったりすることができる。

他 有 证据吗？ → 证据 他 有吗？

我 是 学生。 → 学生 是 我。

二加三 等于 五。 → 五 等于 二加三。

次の用例の波線部の目的語は述語の前に移動することができない。

我和巴斯克伦始终没能成为 真正的朋友。（《中选》P517）

日籍老板 一个星期前从东京抵香港，叫 青木中村。（《中选》P376）

约翰·马切尔，从童年时代起就有 一种古怪而强烈的预感。（《中选》P519）

我们 象 两艘朝相同方向行驶的帆船。（《中选》P517）

4-1-2 用言性の目的語を伴う動詞

動詞の中には常に用言或いは用言連語の目的語を伴うものがある。蔡文兰氏はこのような動詞の常用の四百語あまりを考察して、それを十八種類に分類している。⁹⁾ これらの動詞の中には一部の動詞の目的語は述語の前に移動することができない。

①「不」の字で構成し、否定の意味を表わす一部の複合動詞が伴う目的語。例えば、「不甘」，「不兴」，「不致」，「不许」など。

虽然他有病，但他 不甘 落后。 → 但落后 他 不甘。 ×

白天不兴 喝酒。 → 喝酒 白天不兴。 ×

政府 不许 乱砍乱伐。 → 乱砍乱伐 政府 不许。 ×

②「于」の字で構成する一部の動詞。

亨利·詹姆斯也真够惨的。一生致力于 爬格子。（《中选》P518）

可我久已习惯于在公共场所不露真情，这回竟是要破例也不能了。（《中选》P519）

这友谊与众不同之处，恰在于 他俩共享的那个关于约翰的秘密预感——某种巨大独特的经历将降临到约翰头上。（《中选》P525）

波線部の目的語は述語の前に移動することはできない。

③心理活動を表わす一部の動詞。例えば、「打算」，「企图」，「希望」，「准备」等。

我 打算 暑假去中国。 → 暑假去中国 我 打算。 ×

我们 希望 在日本见到您。 → 在日本见到您 我们 希望。 ×

反正，我当时认定 写书是现今世界上最没意思的行当。(《中选》P518)

我 想起 我18岁生日那天，妈妈 买回 半斤果脯，爸爸 单只 揪了揪 我的毛刷子。(《中选》P522)

波線部の目的語は述語の前に移動することができない。

④「たよる」の意味を表わす一部の動詞。例えば、「靠」，「依靠」，「凭借」，「经过」等。

一家人 全靠 他一个人 工作。 → 他一个人 工作 一家人 全靠。 ×

此事 要 经过 学校 批准。 → 学校 批准 此事 要 经过。 ×

次の用例の波線部の目的語は述語の前に移動できない。

我 这个 大兴庄的 支部书记 得 靠 人家 撑腰 呢。(《中选》P194)

他爹 经过 深思熟虑，终于 有意 当着 她的 面 说。(《中选》P194)

⑤ある方面に力をいれるという意味を表わす一部の動詞。例えば、「致力」，「热哀」，「着重」等。

几十年来他 致力 建设 家乡。 → 建设 家乡 几十年来他 致力。 ×

我们 着重 在 实用 方面 下 功夫。 → 在 实用 方面 下 功夫 我们 着重。 ×

他 总是 热哀 表现 自己。 → 表现 自己 他 总是 热哀。 ×

4-1-3 連動式の述語

連動式述語の場合には最後の動詞が伴う目的語は述語の前に移動することができるのに対して、前の動詞が伴う目的語は述語の前に移動することはできない。

我 上 街 买 东西。 → 东西 我 上 街 买。(○) → 街 我 上 买 东西。(×)

我们 去 电影院 看 电影。 → 电影 我们 去 电影院 看。(○) → 电影院 我们 去 看 电影。(×)

次の用例の波線部①の目的語は述語の前に移動できない。

杨志顺 已经 花 了 不少 钱 置 为了 家具 用品。(《中选》P210)

他 几个月 后 就 毕业，毕业后 就去 他老子 公司 里 “找” 工作。(《中选》P522)

4-1-4 動・目式の動詞

動詞の中には動・目構造で構成した動詞がある。この種の動詞の一部はその構成成分の目的語は動詞と分れて独立する場合がある。このような場合の目的語は述語の前に移動することができない。例えば「吵架」，「说话」，「排队」，「发疯」等。次

の用例を見てみよう。

从早到晚粘得不耐烦，结果飞快地大吵一架，赌气搬了出去。（《中选》P521）

西装革履的绅士太太们排成一队一脸庄严地走上去。（《中选》P523）

他服刑期要满了，忽然发了疯。（《中选》P525）

波線部の目的語は述語の前に移動することができない。

4-2 人を示す名詞，代名詞

人を示す名詞，代名詞が同時に目的語にも主語にも現れる時がある。一般的にこのような場所には目的語は述語の前に移動することができない。この原因については徐枢氏は次のように説明している。「目的語を述語の前（文の最初）に移動したら，文の表わす意味がはっきりしないばかりでなく，二つの代名詞が重なって読みもしにくくなる。」¹⁰¹

他欺骗她。→ 她他欺骗。×

你想念谁？→ 谁你想念？×

次の用例の波線部の目的語は述語の前に移動できない。

后来，捷夫告诉我，他知道我一直没注意到那张警告。（《中选》P522）

那个宋喜元已经郑重其事地告诉他，国庆节就给他和秋月完婚。（《中选》P189）

V 介詞の使用による目的語の移動

中国語では目的語を述語の前に移動する時にはもっともよく使われる方法としては介詞を使うことである。目的語の移動によく使う主な介詞は次のようなものがある。「把」，「将」，「就」，「关于」，「对于」，「叫」，「让」等。

5-1 文の構造によるもの

一部の文では，動詞自身や補語などの文構造上の原因で，介詞の使用が必要である。次の用例を見てみよう。

我的生命是一节呼啸而过的列车，把一路风光尽收眼底。（《中选》P517）

当时我可没把巴斯克伦想象为一个水手。（《中选》P517）

所以，后来我在家信里把自己形容为“空着肚子向美洲进军”。（《中选》P520）

这共同的秘密将他俩紧紧地联系在一起。（《中选》P521）

上述の例で示しているように介詞「把」，「将」を使って，波線部の目的語を述語

の前に置いてある。これらの目的語は述語の後に置きにくい。これは述語の後に補語が付いているからであると考えられる。

5-2 介詞の利用によるもの

述語の後に置いてある目的語は介詞を使って述語の前に移動することができる。例えば：

我们 研究一下下个月的工作。 → 我们 就下个月的工作 研究一下。
他 扩大了研究领域。 → 他 把研究领域 扩大了。
我们要具体分析 他们的问题。 → 对于他们的问题 我们要具体分析。
 次の用例の波線部の目的語も介詞を使って述語の前に置いてある。

青木中村知道了，刻意伸出了双手，把十个手指摊开，“玩钢琴的”。（《中选》P377）

“我刚才问你，你对这段话怎么看？”（《中选》P528）

假如用一架摄影机把我们的舞蹈拍下来做成升格，你才会懂得什么叫做美呢。（《中选》P265）

VI おわりに

以上、中国語の目的語の位置について簡単に考察してきた。これらの考察を通しておよそ次のようなことがまとめられよう。

①中国語の目的語は一般的には述語の後に置く。これは中国語のもっとも基本的な構造である。しかし中国語の目的語は述語の前や文の最初に移動することができるものも少なくない。

②文法上の意味による十三種類の分類の場合には、その十三種類の目的語は基本的にすべて述語の前（文の最初）に移動することができる。

③一部の関連の意味を表わす副詞で構成された述語ではその目的語は述語の前に置く。

④述語の後に状態や程度を表わす補語が付いている場合にはその目的語は述語の前に置く。

⑤目的語も主語も数量詞連語で構成される場合には目的語と主語との位置が入れ替わることができる場合がある。

⑥述語の後に方向補語を伴う場合にはその目的語は補語の後に置く場合もあれば、

前に置く場合もある。

⑦述語の後に数量補語を伴う場合には目的語が代名詞で構成された場合には目的語は数量補語の前に置き、代名詞以外の場合には一般的に目的語は数量補語の後に置く。しかし補語の前にも後にも置くことができる場合も少なくない。

⑧目的語を述語の前に移動することにより、目的語の強調、対比及び話題提供の意味を表す。

⑨関係動詞と呼ばれる動詞が伴う目的語は普通、述語の前に移動することができない。

⑩一部の用言性目的語を伴う動詞では、その目的語は述語の前に移動することができない。

⑪連動式述語の場合には後の動詞の目的語は移動できるが、前の動詞の目的語は移動できない。

⑫目的語を述語の前に移動するもっともよく使う方法としては介詞「把」、「将」等を利用する。

注

- 1) 孟琮《關於主語的語義類》「語法研究和探索」4 北京大学出版社 1988年 P80~90
- 2) 本稿では —— は主語, ——— は述語, ~~~ は目的語, < > は補語, [] は連用修飾語を表わす。
- 3) 黄佰荣他主編《現代漢語》甘肅人民出版社 1983年 張静主編《現代漢語》上海教育出版社 1980年
- 4) 疑問代名詞や数量詞も述語になることができる。例えば、他怎么样了？ 他今年二十岁。
- 5) 《1988 中篇小说選》第二册 人民文学出版社 1989年12月。以下《中选》と略称。
- 6) 李興垂《資語和数量補語的次序》「現代補語研究資料」P292 北京語言学院出版社 1992年では「爹回头看了下我，把我的手拉起来」などの例を挙げている。
- 7) 詹人鳳《受事主語句（名・動式）的識別》「語法研究和探索」六 語文出版社 1992年 P196
- 8) 「現代中国語文法総覧」（上）劉月華他著，相原茂監訳 くろしお出版 1988年 P134
- 9) 蔡文兰《帶非名詞性資語的動詞》「中国語文」1986年第四期 P253~259
- 10) 徐枢《從語法・語義和語用的角度談・名受+名施+動・句式》「語法研究和探索」四 北京大学出版社 1988年 P59